

歴まちワークショップ ニュースレター

No.3

令和2年2月1日

編集・発行

桐生市 都市整備部
都市計画課 歴史まちづくり係

桐生市では、「桐生市歴史的風致維持向上計画」に基づく施策の一環として、桐生が岡公園から重伝建地区周辺への回遊性を向上し、歴史まちづくりにつなげるためにはどうしたら良いかを検討するため、「歴史まちづくりワークショップ」を開催しています。

ニュースレターNo.3では、昨年12月14日（土）に開催された第2回ワークショップで出された主な意見を紹介します。また、最終回となる第3回ワークショップは2月15日（土）に開催予定です。

第2回ワークショップでの主な意見のご報告

第2回ワークショップは、前半に桐生市文化財調査員などを務められている大里仁一氏による講演会が開かれた後、4つの班に分かれてワークショップを行いました。

前回のワークショップで出して頂いた、回遊性の向上のために必要なことや、広場周辺の歴史的資源の活かし方についての意見をふまえて、その優先順位や具体的なルートについて協議するため、第2回のテーマは「①何度も来たくなる広場にするために」「②広場からまちなかへのルートづくり」「③今すぐ自分達でできること」の3つとしました。



第2回ワークショップの様子

★テーマ①「何度も来たくなる広場にするために」の主な意見

テーマ①では、藤棚広場の活用方法について協議しました。第1回のワークショップで出た意見の中から優先順位をつけて頂いた結果、藤棚や広場の整備、イベント開催などについての優先順位が高くなりました。班ごとに優先順位が高かった意見を紹介します。

【1班】

- ①広場や藤棚を整備する必要がある
- ②イベントや花・緑（桐生らしい樹種）で集客
- ③案内板の設置（内容やデザインの工夫）
- ④清掃などの維持管理が必要
- ⑤子供、高齢者が歩きやすい道、遊具

【2班】（優先順位はなし）

- 藤棚周辺を再整備しビジターセンターを設ける（藤にこだわらず他の花木も可）
- 広場及び周辺の案内、歴史を紹介する看板
- 石段等の再整備、定期的な維持管理
- 映えるスポットにして欲しい
- 歴史の学習

【3班】

- ①藤棚広場を重伝建地区と桐生が岡公園との接点として整備
- ②遊具、ベンチ、ドッグラン等の整備
- ③歴史を解説する看板の設置
- ④マルシェなどのイベント開催
- ⑤SNSを用いた若者への情報発信

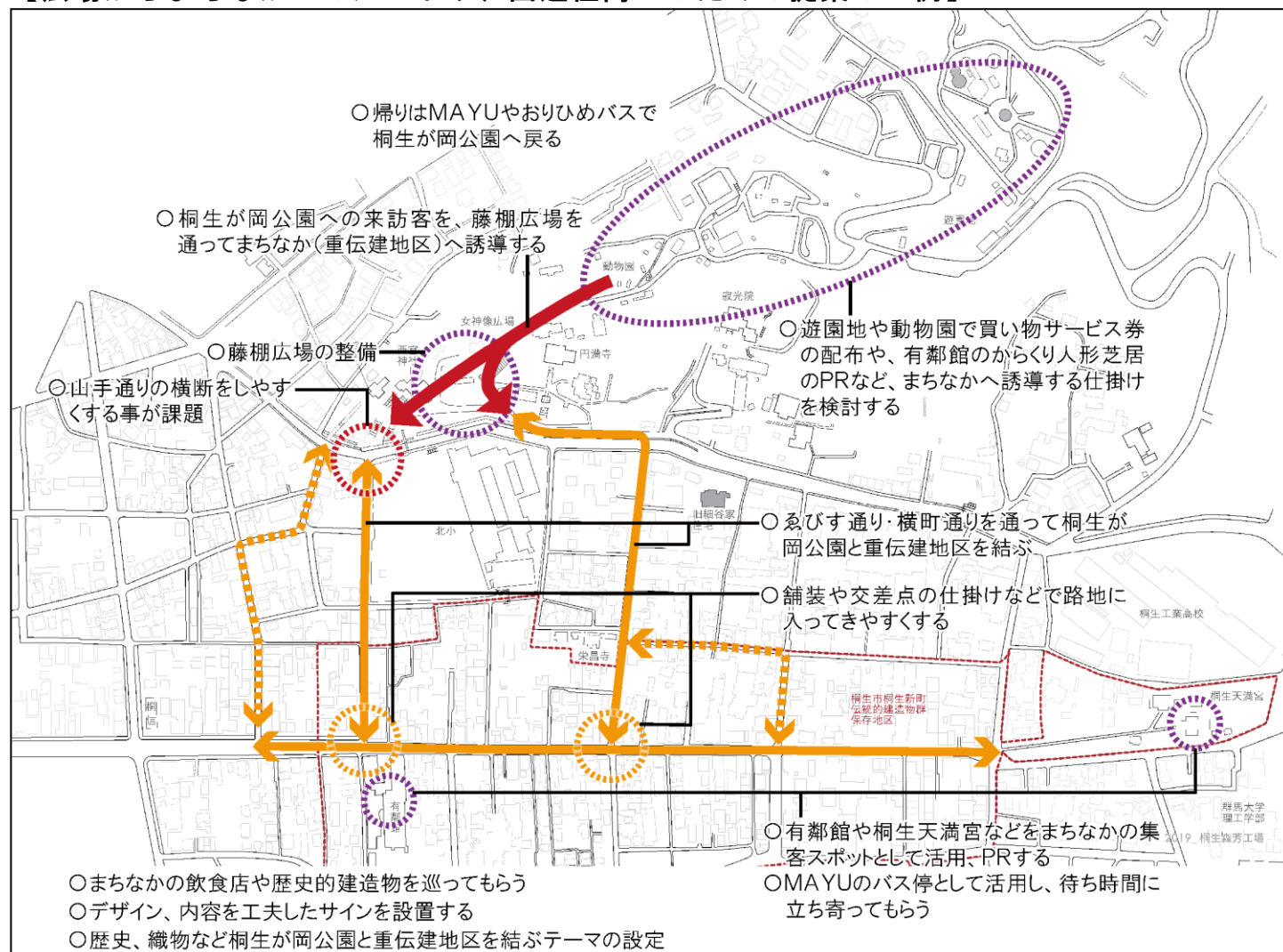
【4班】

- ①景観整備（藤棚、樹木、清掃）
- ②遊歩道の整備
- ③トイレ、休憩所、案内板（情報発信）の設置
- ④歴史を学ぶ
- ⑤イベント

★テーマ②「広場からまちなかへのルートづくり」の主な意見

テーマ②では、桐生が岡動物園から藤棚広場を通して、まちなか（重伝建地区）への回遊性を向上させるためのルートについて協議しました。ろびす通りや横町通りを利用するルートや、回遊性向上のための仕掛けについて提案がありました。

【広場からまちなかへのルートや、回遊性向上のための提案の一例】



★テーマ③「今すぐ自分達でできること」の主な意見

テーマ③では、広場づくりやルートづくりで、お金をかけずに協力できることを参加者から挙げて頂きました。清掃などのボランティアや情報発信、積極的に広場を利用することなどの意見が出ました。

【清掃・美化活動】

- 清掃、草むしり、水やりなどをみんなでやる
- 空き家のそうじや簡単なDIY

【イベントの開催】

- イベントの企画運営
- 整備、維持管理の費用にするため、出店料を払ってイベントに出店する

【案内・ガイド】

- 観光案内・ボランティアガイドをやる
- 道案内する
- MAYUの運転手や人力車の車夫をやる

【情報発信】

- InstagramなどSNSでまちの魅力を発信
- グルメや土産物の紹介

【歴史を知る】

- まず自分が地域の歴史などを知る
- 寺社やまちの歴史を調べる
- 昔の写真の提供

【地域の意識改革】

- 積極的にこのエリアを訪問する
- できるだけ歩きで来る
- 本町のお店で買い物